



コロナ 低圧噴霧オイルバーナ

LP-5N-TA

取扱説明書



安全にご使用いただくために

この度はコロナオイルバーナ
LP-5N-TAをお買い求めいただき
誠にありがとうございます。
充分な性能を満足していただくため、
また安全に、および保守・点検等のため
この取扱説明書をよくお読みください
ようお願い申し上げます。

この説明書は施工業者様はもとより
エンドユーザー様まで確実にお届けください。

コロナ株式会社

〒555-0021 大阪市西淀川区歌島2丁目5番43号

電話 06-6471-8141

FAX 06-6471-5826

E-mail info@coronajapan.net

概要

LP型オイルバーナは燃料、および空気量の調整をハンドル操作のみで燃焼量が自由に調節することができます。

また点検、整備も容易に行うことができます。

購入時の点検確認

ご注文通りの製品かどうか、電源電圧や燃料種、定格燃焼量などをご確認ください。

また輸送中の破損などの有無を点検してください。

安全確保のための警告表示

製品本体や取扱説明書にある、警告図記号や説明文などをよく読んで、正しくお使いください。

禁止マーク
してはいけないこと



指示マーク
必ず行う(守ること)



注意マーク
注意すること



危害・損害の程度を3つに分けて表示しています



危険
DANGER

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告
WARNING

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



注意
CAUTION

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

安全上の注意事項



バーナの着火時や燃焼時には火口の前には絶対に人が立ち入らないようにしてください。



着火動作を連続して繰り返すと炉内、および釜内に未燃焼の燃料が溜まり爆発事故を起こす可能性があります。

繰り返し不着火が続くようであればその原因を取り除いてください。



危険
DANGER

- 本製品を運転中、危険を感じた場合は速やかに運転を停止させてください。
- 失火発生時は原因を取り除き安全を確認してから再着火してください。
- 燃料漏れ時には、すぐに設備の運転を停止させて充分に拭き取ってください。
- 機器の点検・保守作業を行う場合は、常に電源(ブレーカー)を切り、通電していないことを確認してください。 誤って他者が電源を入れないよう注意喚起してください。
- 設備の点検・保守作業は必要な資格の保有する技術者が行ってください。
- 炉周辺には水や水分を含むものを入れないでください。



警告
WARNING

- 作業中は必要に応じて安全装備を着用してください。
- 運転中の制御盤内等の機器類の通電部に手を触れないでください。
- 安全装置を解除した状態での運転はしないでください。
- 安全装置が故障した場合は速やかに修理してください。
- 設備の仕様能力を超えた状態での操業はしないでください。
- 本体に貼付の銘板表示の燃料種・電源を使用してください。



注意
CAUTION

- 設備の点検・保守作業を行う場合は、必ず設備を停止させ他者が運転しないように注意喚起をしてから行ってください。
- 設備周辺は常に整理整頓し、可燃性の物を付近に置かないようにしてください。
- 炉体の表面は高温になることがありますので、手・足・顔などを近づけないでください。 火傷の恐れがあります。
- 点検・保守作業後はすべての安全装置を復旧させてから運転を再開してください。
- 設備を運転する時は、危険な場所に人がいないことを確認してから運転してください。
- 点検・保守作業は、本取扱説明書、および付属書類の手順・注意事項を守り正しく行ってください。 故障の原因になります。

準備

○ 持ち運びについて

バーナの持ち運びの際は、
必ず取っ手部とバーナ架台の
底部を確実に持ってください。
他の箇所を持ちますと、バーナの
損傷やバーナの落下の危険があります。



注意
CAUTION

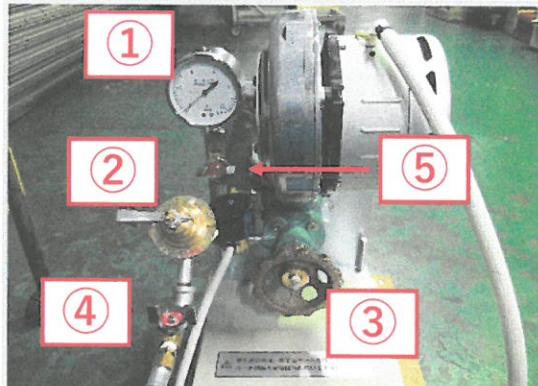


取っ手部

バーナ架台底部

○ 各部名称

バーナ本体

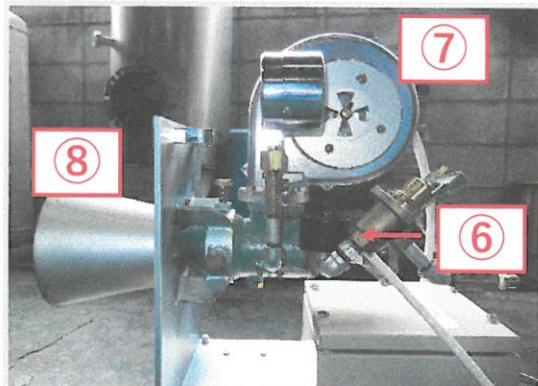


① 噴霧空気圧力計
(圧力計)

② 油量調整バルブ
③ 噴霧空気量調整ハンドル
(菊ハンドル)

④ 油コック
⑤ 圧力計コック
⑥ 油電磁弁
⑦ 噴霧空気プロア
(送風機)

⑧ 火口ラッパ



操作ボックス

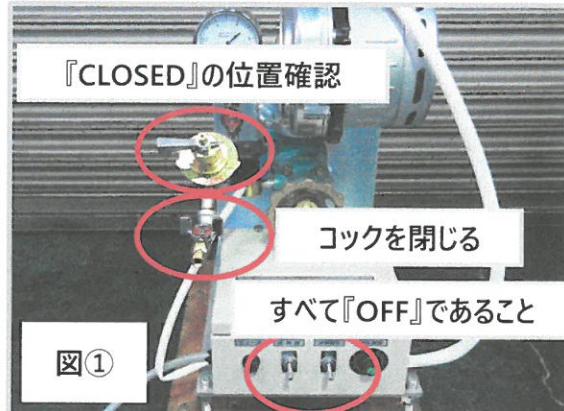


⑨ ヒューズ
使用ヒューズ：250V 10A
(φ6.4×30 溶断特性B種)
⑩ 送風機スイッチ
⑪ 油電磁弁スイッチ
⑫ 送風機風圧調整ボリューム

バーナ取付

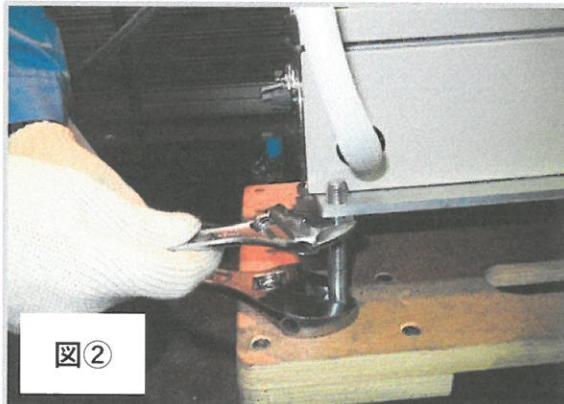
※ 燃料タンクはバーナ本体より1m以上の高さに設置してください。（推奨2m前後）

01. バーナ本体の油コックが『閉じていること』、油量調節バルブのハンドルが『CLOSED』の位置にあること、操作ボックスのスイッチ類がすべて『OFF』になっていることを確認する。（図①）



02. ご使用の燃焼炉、燃焼釜にセットする。

※ スパナなどの工具を使ってバーナ架台の調整脚のナットで高さ調整をしてください。（図②）
調整しきれない場合はブロックなどをバーナ架台の下に置き調整してください。
バーナに傾きやグラつきのないことを確認してください。



03. 油供給用ホースを取り付ける。

※ スパナなどの工具を使って確実に締め込んでください。
締め込み不足ですと燃料油が漏れることができます。



04. 電源電圧を確認のうえ、電源コードをコンセントへ挿し込む。

※ 間違った電源電圧を供給しますと感電やバーナの故障の原因になります。
バーナへの電源供給は単独のブレーカーから供給してください。



05. 噴霧空気プロアの空気取り込み口の

吸込ダンパが全開であることを確認する。

（図③）



着火手順

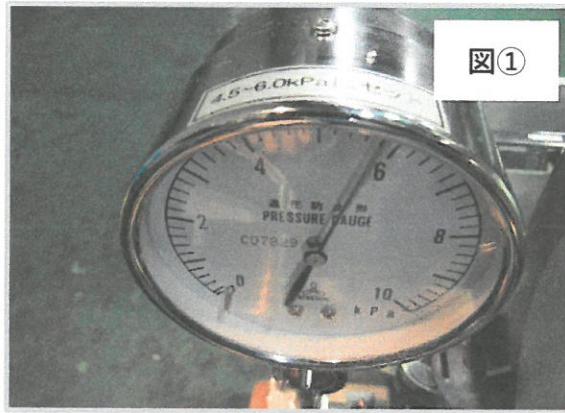
01. 圧力計コックを開く。

02. 送風機スイッチの電源を入れ、圧力計を見ながら送風機風圧調整ボリュームで

4.5～6.0kPaになるように調整する。（図①）

※ 風圧が安定するまで1～2分程度の時間かかります。

安定してから次の操作をしてください。



図①

03. 油コックを開く。

04. 菊ハンドルを矢印の方へ回す。（図②）

※ 全閉の『0』から『4～5』を目安に回してください。

本バーナは全閉の『0』位置から1周と少し回る仕様となっています。

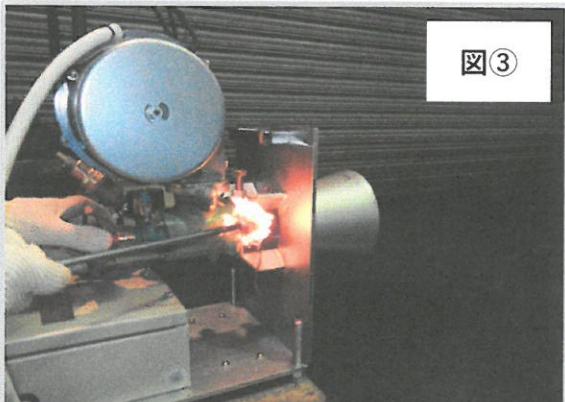


図②

05. 火種となるものを準備する。

06. 図③のようにバーナ架台の後方の隙間から火種を近づける。

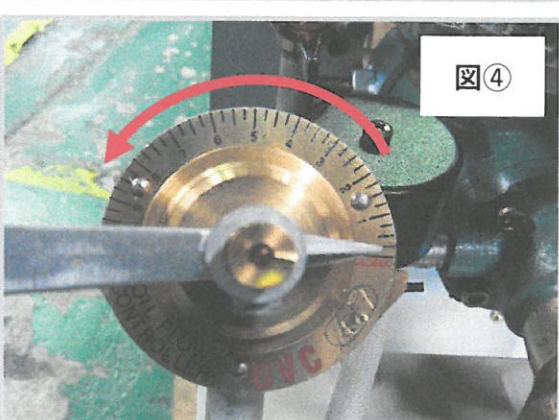
※ 点火の際は火傷などに充分に気を付けてください。



図③

07. 油電磁弁スイッチの電源を入れ、

油量調整バルブをゆっくり矢印の方向へ回し噴霧油量を増していく。（図④）



図④

08. 着火を確認したら速やかに火種を

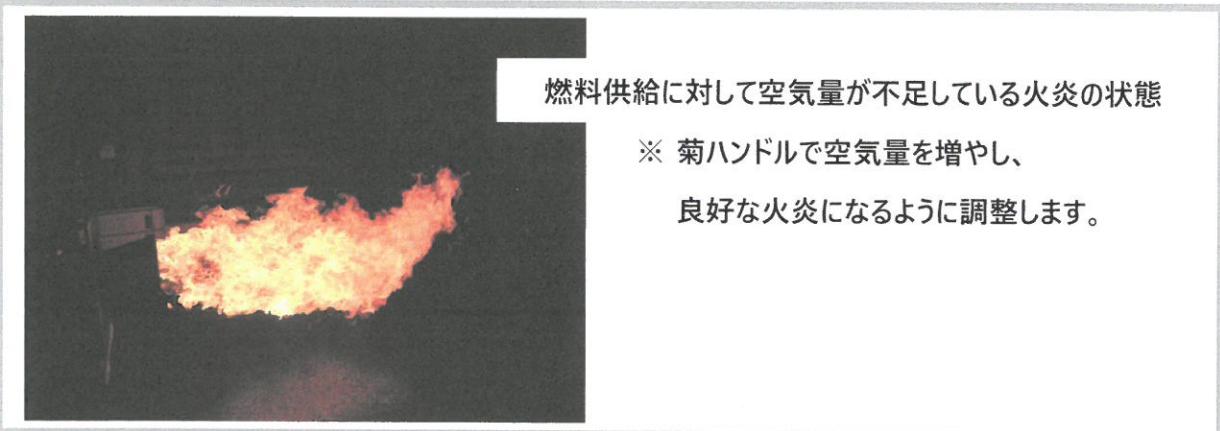
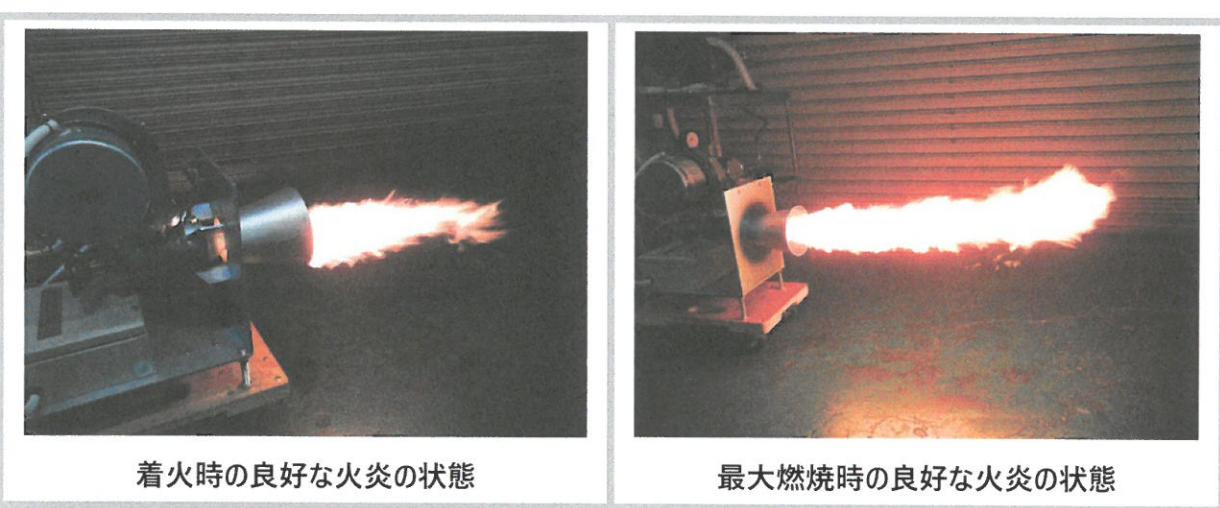
消火する。

燃焼調整

火炎の状態を確認しながら燃料と空気の調整を行う。



矢印の方向へ回すと調整量が増えます。



燃焼調整中に火炎が消えた場合は、燃料供給に対して空気量が過多となっていますので、

油電磁弁スイッチの電源を切り、着火手順の04.に戻って再度着火してください。

バーナ停止手順

01. 油電磁弁スイッチの電源を切る。
02. 油コックを閉じる。
03. バーナ冷却のために送風機スイッチはしばらくしてから電源を切る。

※ バーナ停止直後は火口ラッパやバーナ本体が大変熱くなっています。

火傷などに注意してください。



04. 次回使用のために、油量調整バルブを『CLOSED』の位置に戻す。

05. 電源コードを外す。

※ バーナの予期せぬトラブル防止のため電源コードは必ず外してください。

また、長期間使用しない場合は油供給用ホースを外してください。

製品仕様

バーナ型式	LP-5N-TA
燃焼量	5~30 ℥ /h
噴霧空気圧	4.5~6.0kPa
噴霧空気量	1.0m³/min
供給油圧	自然流下ヘッド圧2~3m (0.02~0.03MPa)
燃料	灯油・A重油・軽油 ※ 再生油・廃油の場合は別途相談
着火 / 制御	手動着火 / 手動制御
供給電源	AC100V または AC200V

トラブルシューティング

電源が入らない	○ 電源ブレーカの確認
	○ 電源コード、およびコンセントの確認
	○ 操作ボックスのヒューズの遮断確認
噴霧空気圧力が上がらない	○ 圧力計コックの確認
	○ 送風機スイッチの故障
	○ 噴霧空気プロアの故障
	○ 送風機風圧調整ボリュームの故障
	○ 噴霧空気プロアの吸込ダンパの確認 → 全開になっていること
着火しない	○ 燃料タンクの燃料の確認
	○ 燃料タンクの位置確認 → バーナ規定より低い位置にあると燃料が噴霧しません
	○ 油コックの確認
	○ 油フィルターの確認 → フィルターが詰まつていれば清掃または交換する
	○ 噴霧空気量の確認 → 菊ハンドルで噴霧空気量を調整する
	○ 火種の確認 → 火種が小さすぎると引火しないことがあります
	○ 油供給配管の空気混入 → 油供給配管内の空気を抜いて燃料を充満させる
	○ 油電磁弁の確認 → 動作不良の時は油電磁弁の故障です
	○ 噴霧空気圧力の確認 → 規定圧力内であるか、圧力が安定しているか
	○ 燃料供給原の目詰まりなどの確認 → 燃料タンクやホース内、油フィルタに異物や不純物がないか
途中で失火する	○ 燃料油の温度の確認 → 燃料油温が低いと燃焼しにくくなります
	○ 燃料と空気のバランスの確認
黒煙が発生する	○ 燃焼空気量の過多（燃料噴霧不足） → 燃焼調整してください
未燃焼の燃料が炉内に溜まる	○ 燃焼空気量の不足（燃料噴霧過多） → 燃焼調整してください

※ 上記はよくあるトラブルをまとめたものです。

上記以外でもトラブルが発生することがありますので、詳しくは販売店までお問い合わせください。